

平成 28 年度（2016 年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教主義のもと、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新人教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語 4 技能の修得と国際理解を深める。
- 2、ICT 教育の推進
 - (1) ICT 機材を用いた授業研究の推進
 - (2) ICT 環境を用い、アクティブラーニング (AL) を取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して 4 段階（そう思う(4 点)・だいたいそう思う(3 点)・あまり思わない(2 点)・思わない(1 点)）でアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

普通教科・実習教科については中学高校ともほぼ昨年同様の結果となった。項目ごとでは、生徒への公平な接し方、言葉遣いや振る舞い、教室への移動、朝の礼拝指導など基本的な行動については今年度も良い評価であったが、興味がわく工夫や授業改善、「建学の精神」や「スクールモットー」に触れる時間などは、厳しい評価を全体では受けている。

担任に対する評価は中学生での評価が大幅に上昇した。よりきめ細かく対応する事を実践してきた結果と考えられる。なお、高校は昨年とほぼ同様の結果であった。

また、個々の担当者の結果には差が見られ、低い場合には個別に面談を実施し改善点を確認した。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

昨年度と同様に、学校運営15項目・教育内容14項目・生徒指導支援6項目・教員研修資質向上5項目を設定し、項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の4段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、各項目の得点の平均値を算出した。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

2016年度の全項目の平均値は2.729となり、昨年の2.996より厳しい自己評価の結果となった。ただし、2017年度前半は2.817と改善が見られた。平均値が高い観点項目は昨年同様、「教育課程」、「情報公開」、「教育内容」のその他（読書推進、部活動、学校行事、スポーツ芸術文化）、「生徒指導」があげられる。直接生徒の教育活動に関わる部分での評価が高い。逆に評価が低かった観点は、「財務関係」、「研修結果の共有」があげられる。指導要領の改訂を控え、研修に参加する教員が多くなる中、研修結果を共有する機会を増やすことで、生徒への教育活動がさらに活発になると考えられる事から、今後の重点課題としたい。

昨年からの比較では、評価が向上した項目は、40項目中28項目あった。特に大きく改善が図られたものは、①「危機管理」、②「私学の独立性」が上げられる。危機管理マニュアルの刷新を行った事や、制服の改正、ホームルーム教室への電子黒板機能付きプロジェクターの設置など設備充実を進めたことが評価を高めたと考えられる。また、逆に降下したものは、①「生徒会活動」、②「校内研修」があげられる。今後改善のための取り組みが必要と考えられる。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 平成29年9月22日実施

(委員) 校長・副校長・PTA会長(欠席)・地域郵便局長・学園監事・学園評議員(総務部長)

【平成28・29年度実施の生徒評価について】

- ・ 中学担任に対する評価が特に良くなっているが理由があるのか。
- ・ 指導が厳しい先生の評価が悪くならないよう、また、人気投票にならないように注意が必要だと思う。

【平成28・29年度実施の教員自己評価について】

- ・ 昨年に比べて、「よく当てはまる」側に数字がよっている。よい傾向だと思う。
- ・ ICTを利用した教育では、教材準備が大変ではないか。研修会などへ参加しているのか。
- ・ 教員の入れ替わりは多いのか。
- ・ 塾に通っている生徒は多いのか。
- ・ 英検やTOEFLなどの検定試験の受験は多いのか。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標 進捗	自己評価
1. 生徒指導の充実	(1)教員間の授業参観を推進する。 (2)新人教員育成制度の導入を検討・実施 (3) 英語 4 技能の修得と国際理解を深める	(1)授業参観期間を設定し、レポートの提出を義務化することで授業改善を促す。 (2)新人教員にアドバイザー教員を配置し、授業・生徒指導等でレポートを作成し育成をはかる。新人教員を対象とした教員研修を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機会（バブルツージャパンとの連携講座、TOEFL 受験対策講座）を増加させる。また、英語ルームの新設、イタリッシュ シャワーを日常的に実践出来る場を作る。	(1)教員による自己評価アンケート（以後自己評価）教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交換を行う機会がある」の肯定的評価を 75%以上にする。（2015 年度実績で 71.1%） (2)新人教員の相談をベテラン教員がアドバイスする研修会を実施した。自己評価・教員研修「初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。」の肯定的評価を 70%以上に保つ。（2015 年度実績で 71.1%） (3) 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。」の肯定的評価を 85%以上に保つ。（2015 年度実績で 92.1%）	(1)2016 年度 52.1% 2017 年度前半 51.3% (△) 継続し、授業参観の対象を決めることで充実を図る。 (2)2016 年度 41.7% 2017 年度前半 54.0% (△) 指導回数や指導内容のレポートの提出等を義務づけるなど改善し、継続して取り組む。 (3)2016 年度 83.3% 2017 年度前半 82.0% (△) 英語ルームの運用を始め・活用について工夫する事で利用者の満足度向上を目指す。
2. ICT 教育の推進	(1)ICT 機材を用いた授業研究の推進 (2)ICT 環境の整備 (3)ICT 環境を用い、アクティブラーニング (AL)を取り入れた授業研究の推進	(1)ア、プロジェクトチームを結成し、委員が中心に情報収集・校外研修に参加する イ、委員が校内で研究授業を実施し、全教員へ普及を図る。 (2)電子黒板機能付プロジェクター、ホワイトボードを備えた教室を増やす。 (3)ア、教員研修会を実施し AL について学ぶ イ、全教員の普及を図る	(1)ア、実施済 イ、プロジェクトメンバーが ICT を用いた研究授業を実施。他の教員が授業レポートを作成しメンバーで共有した。 自己評価・教育内容に「ICT 教材を用いた授業が計画的に行われている。」を項目に加え、肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)2015 年度実績 9 教室 全ホールームへの設置を段階的に進める。 (3)ア、外部講師を招き AL に関して校内研修を実施した。 イ、教科で 1 名以上の教員で研究授業を実施した。 自己評価・教育内容に「ICT 教材を用いた授業が計画的に行われている。」を項目に加え、肯定的評価 70%以上を目指す。	ICT 機材の導入が進んでいるが、授業での活用を引き続き推進する。 (○) (1)新規項目で 2017 年度評価を実施する。 (2)2016 年度実績 新たに 13 教室に設置、計 22 教室に設置完了 2017 年度前半 新たに 27 教室に設置し、HR 教室全教室に設置完了した。 (◎) (3)ア、実施できた (◎) イ、実施できた (◎) (3)新規項目で 2017 年度評価を実施する。
3. 危機管理の徹底	(1)火災・防災訓練の強化 (2)不審者への対応マニュアルの改訂	(1)年 2 回の訓練を、学期ごとに 1 回年間 3 回実施する。 (2)ア、校務分掌の変更など整理し、現行の対応マニュアルの見直しを実施する イ、マニュアルを教職員で共有化し対応できるよう訓練等を実施する	(1)今年度 3 回実施できた。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。（2015 年度実績で 86.9%） (2)2017 年 9 月改訂を行い。教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分取られている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。（2015 年度実績で 92.1%）	(1)2016 年度 81.2% 2017 年度前半 87.2% (◎) 継続して取り組む (2)(3)2016 年度 83.4% 2017 年度前半 94.9% (◎) 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管理マニュアルとし、訓練や見直し

	(3)災害への対応マニュアルを設定 (4)食料等の備蓄	(3)ア、学園レベルでの危機管理マニュアルを策定 イ、マニュアルを教職員で共有化し対応できるように訓練等を実施 (4)非常食・水を3年間かけ全校生分を備蓄する(2013年度から継続中)	(3)豊中キャンパス中学・高校で2017年9月、事故対応マニュアルを新規策定。教職員へ告知した。 評価指標は上記(2)と同様 (4)全生徒分の備蓄が完了した。2016年卒業時に3年間備蓄した非常食・水を渡し、新たに入学生徒分の備蓄を行った。	を継続的に実施することで生徒教職員の安全確保を万全にしていく。 (4)体制が整う。 (◎) 継続して取り組む
4.カウンセラーとの連携強化 強化 イ、不登校生徒への対応強化	カウンセラーとの連携強化 イ、不登校生徒への対応強化	ア、カウンセラーと教員との懇談を定期的に実施する。 イ、別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。	ア、カウンセラーを含め特別支援委員会を月1回、定期開催し、支援が必要な生徒の把握および対応方法が教員間で共有できた。 自己評価・生徒支援「カウンセリングマインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2015年度実績で89.5%) イ、不登校生徒に対し、2017年4月から別室を設置し、コーディネーター教員を配置した。 評価指標はアと同様とする。	ア、イ、体制が整い、生徒支援が進んだ。 2016年度 73.0% 2017年度前半 86.5% (◎) 継続して取り組む 今後は、不登校生徒への対応強化へ繋げていく。
5.財務状況の共有化	(1)財務説明会の実施 (2)コスト意識の改善	(1)職員会議での財務説明会を実施する。 (2)職員会議での節電等の注意呼びかけ ア、蛍光灯からLEDへの入れ替え	(1)職員会議で常務理事から複数回報告を実施した。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。(2015年度実績で50.0%) (2)節電のための食堂使用時間を見直した。 耐震補強工事にあわせ円形校舎にある教室の照明をLED化した。また、体育館の照明もLED化した。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。(2015年度実績で44.7%)	(1)2016年度 39.60% 2017年度前半 33.35% (△) 継続して取り組む (2)2016年度 35.5% 2017年度前半 28.25% (△) 継続して取り組む 継続して重点項目とする。